実施した交流プログラムの概要

資料6-3

◆SUIJI(Six-University Initiatives Japan Indonesia)サービスラーニング・プログラム (SUIJI-SLP)

学士課程では、日本・インドネシア6大学で構成するコンソーシアムの下、両国の学生が、2～3週間にわたって共に農山漁村に滞在し、現実の課題に取り組むサービスラーニングを実践する。

◆SUIJIジョイント（ディグリー）・プログラム・マスター及びドクター

SUIJIジョイント・プログラム・マスター（SUIJI-J(D)P-Ms）及びドクター（SUIJI-J(D)P-Dc）では、SUIJIコンソーシアム構成大学の大学院修士・博士課程に在籍するSUIJI-J(D)P履修学生が、受入大学で実施される共同教育プログラムの単位を修得したうえで、在籍大学が定めた修了要件を満たし、在籍大学と受入大学の共同による研究指導の下で修士論文を作成することにより、大学院修士・博士課程のSUIJI-J(D)Pの修了をSUIJIコンソーシアムが認定する。

本事業は、コンソーシアムを構成する6大学が足並みをそろえながら事業の運営を担う体制を構築し、日本、インドネシア各大学間で質の保証を伴ったプログラムの運営を通じて6大学の学生交流を飛躍的に進展させてきたことに最大の特徴がある。

交流実績

		H24	H25	H26	H27	H28
派遣学生数	3か月未満	0	60	52	64	61 (予定)
	3か月以上	2	6	6	3	3
受入学生数	3か月未満	14	33	39	40	39
	3か月以上	5	6	12	12	10 (予定)

質の保証を伴った交流枠組み（相互単位認定、共同学位プログラム等）の形成

連携6大学で構成するコンソーシアムにおいて、学士・修士・博士課程各々のプログラムに関する共通ガイドラインを共有、必要に応じて改定・作成している。単位あたりの授業時間数・授業毎の付与単位数の相違などが挙げられてきたが、各大学のガイドラインを策定する際にこの課題を調整している。

学士課程におけるサーバントリーダーに関する資格、及び修士課程におけるJDP-Ms修了認定に関して、コンソーシアム構成大学間で統一された認定基準を作成した。資格及び修了の認定に際しては、本認定基準と各大学の学内会議を経て提出された判定資料に基づいてコンソーシアム機構長が認定を行う仕組みとして整備した。

コンソーシアムの下、事業の運営を担う体制を構築し、日本、インドネシア各大学間のカリキュラム・単位制度、アカデミックカレンダー、両国の学術的・社会的文化に関する情報交換と協議を定期的に行っている。

情報交換と協議は、6大学の実務者が集まっての会議のほか、特定教員が出張しての協議、テレビ会議、メールなど様々な形で行い、日本・インドネシア双方の学生に充実した履修のサポートを行う体制を構築した。

プログラム参加後の学生のフォローアップ・出口対策

日本では、平成25年8月のSUIJIセミナーにて、プログラムに参加した日本人学生が3大学合同のOB会組織を設立した。OBは、プログラムに参加する学生への就学・生活支援、実習受入先などの情報をFacebook等を活用して積極的に提供している。

学外団体との協働においては、愛媛・インドネシア友好協会（平成20年設立）、愛媛大学校友会インドネシア支部、インドネシア愛媛県人会と情報交換会や学生成果発表会などの機会を設け、連携の強化をはかっている。

インドネシアでは、プログラムに参加経験のあるインドネシア人学生がインドネシア各大学でOB会を設立し、積極的に日本に留学する予定のインドネシア人学生、インドネシアに留学する日本人学生の就学、生活面の支援を行っている。

情報の発信・成果の普及

本構想の専用ホームページを立ち上げ、取組の進捗と成果について、主にFacebookを通じた情報共有、情報発信、学内外への成果公表を行っている。

平成28年12月末現在までの取組の進捗と成果については、大学広報誌、日本3大学の大学公式ホームページ、インドネシア3大学の大学公式ホームページを通じて情報公開した。

本構想の取組状況は、日本語の新聞・雑誌・テレビ・インターネット、インドネシア語の新聞・テレビ等にも取り上げられた。

SUIJIコンソーシアムが平成22年度から毎年主催しているSUIJIセミナーや国際セミナーの開催を通じて、本構想の事業の実施、達成・進捗状況を広く国内外に公表している。

学士課程プログラム修了生の中には、「トビタテ！留学JAPAN」などの留学制度を活用して長期に留学した学生が恒常的に育っている。また、プログラム終了後も自主的に地域活動に参加するため地域に通い続ける学生が増えている。

修士課程プログラム修了生の中には、自らの海外経験を生かすため、インドネシアを含む海外に支店や拠点を有する企業に就職することを希望し、就職に結びついた学生が出てきている。

今後の展開

SUIJI-SLPに関する将来計画

- 参加学生数、引率教職員数、予算を考慮して、実習先の数と場所、期間について再検討する。
- 各大学は、在籍学生を支援する資金の確保に努める。
- インドネシア側大学の受け入れ体制の充実を検討する。

SUIJI-J(D)P-Ms & Dcに関する将来計画

- 6大学はSUIJI-J(D)P-Ms と Dcを継続することに合意した。
- より多くの学生が参加しやすくなるよう、共同教育プログラムの実施内容とSUIJI-J(D)Pの認定方法を含むプログラム運営方法について検討を開始する。
- すべての大学は学生の海外派遣に必要な資金の確保に努力する。
- プログラム参加学生の両国大学間での体系的な教育・研究を促進するため、コンソーシアム内での共同研究の推進を図る。

日本-インドネシアSUIJI共同研究プロジェクトに関する将来計画

- 各大学は、両国間共同研究を目指し、具体的な研究内容を企画する。
- SUIJIコンソーシアムは、共同研究の可能性のあるテーマを共有し、研究助成に関する情報をそれぞれの申請締切に先立って共有する。また、共同研究の立ち上げに向けて協働する。